

2000年プレ冬合宿報告書



SAC

信州大学山岳会

巻頭に寄せて…

プレ冬合宿は乏しい積雪に何かと悩まされた。毎年プレ冬が行われる11月おわり、12月はじめという冬の始まりのこの時期は毎年微妙だ。私の経験した4年間プレ冬は成功した試しがない。まるで好きな子に振られつづけるダメ男状態である。しかし来年も後輩たちはこの時期にこの山域に性懲りもなく足を運ぶだろう。彼女は果たして振り向いてくれるのだろうか？振り向きざまに「しつこいのよっ！」なんて強烈なビンタが飛んできたりしないことをただただ願うばかりだ。山を女性にたとえ恋焦がれる岳人の気持ちが最近わからないでもない。山も縁か…。

岸本

目次

- ・ 行動記録
- ・ 係りの反省
- ・ 個人の反省・感想
- ・ 編集後記

プレ冬行動記録

11月23日 松本=8:00 猿倉出発～10:10 小日向の科尔～15:00 樺平 TS 着

晴れ

1 日目雪^ほ殆どない。小日向のこるまで夏道通しにすいすい進む。小日向のこるから実質双子尾根に入るのだが、ここも雪はない。藪こぎ開始。積雪があれば小日向の科尔から樺平までは1時間で着く。しかしそれは雪があつて藪が隠れての話。立ちほだかる藪は強烈だった。結局4ピッチほどかかって樺平到着。樺平周辺は多いところで積雪40cm。これほど雪が少ないのはここ数年初めてだった。向かいの楯池も真っ黒だった。

11月24日 5:00 起床～6:15 出発～15:00 杓子尾根とのジャンクションピークの先、雪

晴れ

のないガレたナイフリッジが現れ撤退。～5:00 樺平 TS 着

積雪は相変わらず少ない。とくに尾根上は岩肌・ガレ場がむき出しの所が多く雪があれば必要ないであろうと思われる個所でも Fix がたくさん出た。不慣れな一年生は通過に時間がかかった。そうしてたどり着いた先に我々を待っていたのはさらに悪相のガレガレのナイフリッジ。先行していた。Fix 隊のジャンボが恐る恐る4つん這いでリッジをいく。丈夫な木もなくもちろんピンを打つようなところはない。歩く先から足場が崩れていく有様だった。渡りきって上部の偵察を行うがその先もそれなりにロープが必要そうとのこと。松寄は進むか引き返すか迷ったが、上級生数名がとりあえず問題の目の前のナイフリッジを歩いてみてこれは1年生には(でなくとも)危険と判断。撤退する。帰りも帰りで行きに Fix だったところがやはり悪くそれなりに苦労した。

11月25日 4:30 起床～6:30 ビーコン訓練～10:00 撤収・出発～12:15 猿倉台地～15:00

晴れ

二股着

このまま帰るのは…。ということで樺平の吹き溜まりを利用して実際にビーコンを複数埋めたり人を埋めて捜索訓練をした。人をさした時のソンドの感触はそれとわかる特別なものであった。埋没体験は埋められると誰もが「こんな死にはしたくない。」と思うようで雪崩に対する警戒心が高まりよい。下りは4時間かかった尾根の横のルンゼを20分で降りた。天気は3日間、実によかった。長い林道歩きの中、やはり簡単とはいってもバリエーションはバリエーションだと思う次第であった。

係の反省・改善点

会計・渉外

収入 80,000 円 (8000_円 × 10人) 支出 61,745 円 (食_と、そ_うび)
8,000 円 (交通_と)

残金 10,255 円

↳ みんなに 1000 円 返却

、ドライバーの方へはガム、消臭剤なども。

以上

3年 梶原 恵

エッセン係からの反省

あくまで冬を想定しての食料計画ではあったがやはり日数が短いので多めの食料ではあった。詳しい反省は冬合宿本番が終わってからに差し控えさせていただくが、ミルメーク等新しい試みの大半は成功と見てよいと思う。冬合宿でも継続して使用していくつもりだ。

あと最終日の朝のミルメーク事件では皆にご迷惑をおかけした。深く反省しております。



装備係反省 機山勝負.

- 竹ポール(長) おれまくった。
→ やぶだらけだったから仕方ない。
- エッセンストをつくった。→ なかなか良い案。
人数によっては使える。
- FIX具へらした。
→ もっとへらせる。ロープ長205mに対して、スリング40、ピタ40というのは多い。だいたい30くらいでOKか。あとは個装でなんとかなる。
- スロープンカーはもって行きすぎ。→ 使えるヒートは少ない。
- 食器を個装にした。→ 良案だが、(しっかり)自分のとわかるようにしないと何の意味もなくなる。
→ 冬合宿からは銀食器を個装にして使う。このことによりビン缶の缶はいらなくなる。
- トランジバー
→ 予備アンテナ忘れた。トランジバーは4個ほしい(CL, SL, FIXx2)
- ビーコンの予備電池はいらない
→ こまめに切っておく(安全地帯) ~~新=帰て~~
- 銀板ボロボロ → 新しいのを買う。つくる。

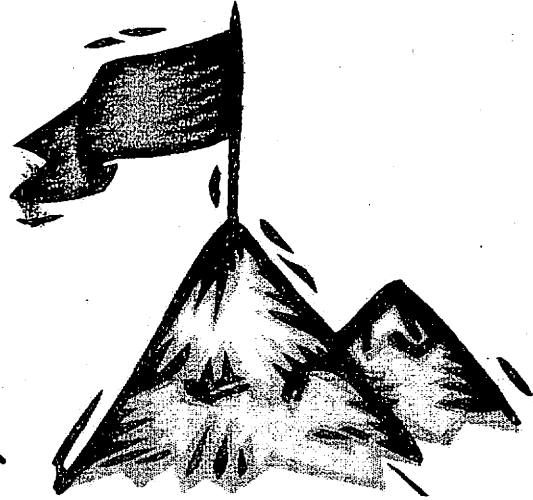
★紛失

カラビナ1枚

→ すみませし。FIX時におとしました。

★感想

係2年目なので特に迷うことはなかったが、細かい所で
もっと追求できたと思う。へらせるものはどんどんへら
して良いと思うが、へらすことのみならず、重要
なものをなくす、ということがないように。
ただし、FIX具は今までもっていきすぎている感がある。
もっと少ない量でも充分対応が可能であると思うが。



記録の反省

みなさんもっと感想を書いていた
ただきたい。これでは読み手が
なーんにも面白くないし、2、
3年後この記録を読んで11月
後半の猿倉～白馬間のルートは
こんなでう、うーんそうなんだ
というようにしたい。すぐ寝た
いかもしれないけどバシバシ書
いてゆきましょう。

医療

林 勝也

今回初めて医療を担当しましたが、知らぬことも多く、皆に迷惑をかけたことをおわびします。

今回は風邪対策に重点を置き、風邪薬・ビタミンC 3人×4日分・解熱鎮痛剤、外傷には包帯がーせ・絆創膏・マキロン・軟膏等適量、他にカルシウム・アリナミンA等を持っていった。

結果的に天候もよく予定より早く下山したので、体調不良もケガもなく、医療缶を開けることはなかった。

今回の反省点は、医療缶の中身が多すぎた事、薬品に古い物が混ざっていた事である。対策は、中身を必要最低限に厳選すること、定期的に薬品を使用期限前に交換することの二つである。

気象

今回の合宿もまた天気に恵まれ、
 晴天は一回しか書けなかつたが、ラ
 ジオまたおき、天気予報も当たった。
 し、冬合宿は今回よりず、今
 と長く、うに事は前々、合宿の成功を
 ちと握肥の左右するのでは-----。

宮西 堅司 (会)



このついでから朝食後の紅茶に代わり等
 入れた「ミルク」。準備の段階では、
 「重いねーが」「いゝな。紅茶は」「満ちよ。」等々
 保体的な上級生の文句の嵐に。しかし、実際は一口
 飲むとどの味もいかに語り前音指女回。やっぱり市民権
 を得たミルク。朝の至福の一時。野川は「ガブッ」一枚!!

個人の反省・感想

反省・感想

林 勝也

今回は天候に恵まれたが雪が少なく、中途敗退となった。

今回も例によって不安を感じつつの山行で、慣れないアイゼン歩行やフィックス等、非常に恐く時間がかかってしまった。又、「こんなものは春山だ。冬山と思うな。」と何度も言われ、冬の厳しさは想像以上のものだと思った。

三日目にビーコン訓練後、雪崩の埋没体験という事で実際に雪に埋まったが、身動きもできず闇の中で人生最大の恐怖を味わった。今までは危ないと言っても自分が注意して慎重に行動すれば上かった。しかし、もし滑落したり雪崩に巻き込まれ、埋まってしまえばこうやって抵抗できない状況に置かれてしまろということに、生まれて初めて死の脅威

を間近に感じた。

冬山には言い表せない魅力があるが、同時に、常に死と向き合わせてある、ということも肝に命じておきたい。

佐藤祐樹

反省

下山中の足元不注意が目立った。猿倉台あたりで氷の道にツルツルと3回ぐらいこけてしまった。下山は気が抜けやすくなってしまふ。以後注意したい。また体力強化も計りたい。

感想

プレ冬は例年と同じく残念ながら敗退に終わった。しかし、こんなこと書いたら最後のプレ冬である4年生には悪いかもしれないが、敗退といういやな字にかかわらず、かえって晴れ晴れした気分であった。ボクシングで笑いながら負ける奴の顔を見たことがあるがきつとこんな気分であったのだろう。



上部のがしがれのナイフリッジはおそろしい。
トップのシヤンホは一応ザイルをつけて歩いていたが僕の体重は80kgオーバー。この時ほどザイルの存在が重要なのは覚えておくべきだ。

フエ冬合宿の反省・感想

(会) 宮西堅司

今回の合宿もまた晴天が続き、先輩達も何度も、『これは冬山じゃない、春山だ。みんなのせ冬山と思わない』と言っていた。確かに想像していたより、ずっとなんか生活が楽であった。むしろ楽しかった。

反省としては、まだまだ夏の要領でやっている事が多い。もう少し緊張感を持つにこした事はないだろう。

今まで、縦走に関しては、恐怖心なんてなかった。しかし、今回のフィックス通過など、フィックスなしでは行ける気がしなかった。そそと、すいすい登っている先輩方には、いつもながら驚かされた。冬山は危ないと誰もが言っていたと分かった。まあ、なんとかなるだろう。

プレ冬合宿を終えて

2年 野川謙介

やはり白馬、それもこの双子尾根とやらに我々信州大学山岳会は嫌われているのだろうか。前回の大雪による敗退に続いて2度目の敗退である。前回は雪がありすぎて、そして今回は雪が無さ過ぎての敗退である。嫌われているんだな～と言うほかにない感じである。まあ気象条件に関してはfixはって通過することも、ラッセルして突き破ることも出来ないのでしょうかない。合宿自体は敗退したが、僕自身fix隊に出て色々勉強させてもらったし、エッセン係として台所を任せていただき身に余る光栄であったと共に、良い勉強になった。Fix隊に出て本隊との意識の差を面白いほど感じた。特にあのナイフリッジでの梶さんの必死の綱渡り(まさしくこの表現が当てはまるほど痩せた尾根)の最中に本隊は後ろでくだらないことで大爆笑。前と後ろのコミュニケーションが噛み合っていなかったことの良い例だと思う。最高責任者、リーダーに最終決定を委ねるほどの判断材料をfix隊として与えられなかったことに対する不甲斐無さも感じるが…。天気にも恵まれた。厳しいラッセルも無く終始穏やかな気候で、厳しさにもまれ、冬本番に備えるという趣旨においては恵まれなかった合宿であったかもしれない。しかし雪にまみれ、高度を上げて行くあの感じはやはり冬山のそれであった。本番が楽しみである。

プレ冬の反省と感想

反省点は、ジャンクション・ピークの先においてのFix隊と本隊との意識の差。リーダーが判断しやすい材料を伝えていかなければ…。この点について冬合宿に生かしていきたい。

感想は、天気も良く、Fix隊で楽しませてもらったので、大満足。写真も撮れたのでまたまた大満足。やはり冬は、軽マと小マのコンパクトカメラが一番!! IXY万歳!! 以上

3年 梶原 恵

プロ冬の反省と感想

はいはい冬がやって来る。一年生はラッセル、強風、稜線歩き等、
体験すべきものがたまたまあつたが、冬山の一端を知ることができたはず。

冬山には独特の雰囲気、夏には絶対得られないものがある。

これを十分に楽しむためにも、しっかりと体調管理をして冬合宿に
望んでほしい。冬合宿は面白いものとなる。

またまたっついでにだけでなく、自分も隊の一員なのだということも
感じたい。合宿という形態をやる以上全員が協力しないと
成功しない。一緒に冬合宿を成功させよう。

上級生は、今後、進むのが遅いのか等の決定を下す場面になった時、
もっと迅速に、各自が対処できるのではなかったらうか。

いい経験になったと思う。

個人的には、サウナーとしての存在感みたいなものをだせたらいいなと
思って望んだ合宿だったが、またまたでした。

周回への配慮が全然足りなかったと改めて思った。

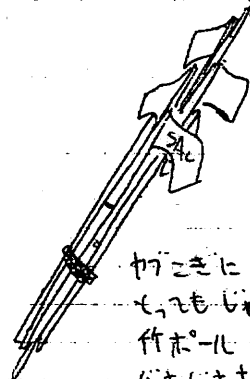
リーダーをした林太郎はあつかれさま。

もと雪があれは確実にトレスを踏めたのがちよと残念だったが
(というか天気が良すぎ、ポカポカで春みたいだった。) 冬を前に
各自が気がまきましたなら、いい合宿だったのではなかったかと思う。

これにしても、プロ冬向きのルートじゃなかった。前半はヤブ合宿
だったし、あんまりfixがでるわけ。

早く雪が積もりやがれ、こんちくしよう。

3年 横山 knock



サウナー
でもサウナー
竹ポール
バキバキ折れそう
悲しいかな。

プレ冬合宿の反省感想

3年 松寄林太郎

例年以上に雪がなく、晴天が続くプレ冬であった。雪がないための敗退とは何とも悔しい。

今回はいつもとは違う立場で合宿に参加したためか、感じる事もいつもと違うものだった。一番強く感じた事は、上級生が本当に心強い存在であるという事だった。FIX にしろ退却時の判断にしろ、それぞれの上級生が自分の考えを言ってくれた。そのおかげで自分は、気持が楽だった。そこから思った事は、やはり自分が思った事はどんどんリーダーに対して言うという事である。

一年生に対して、今回は冬山ではない。合宿中にいろいろ言ったから以上。

2年生というより野川に。よくやっていたと思う。

3年生は、お互いのコミュニケーションという点はだいぶよくなって来たと思う。

4年生へ、いろいろとアドバイスありがとうございました。冬合宿働きます。



・埋没訓練では埋める前は「^{さか}は出してやるから。」
と言いつつ、埋めた後何にもしないで^{さか}反応をまて
しろうのが人の性。しかし、冗談とは思って
もあの閉塞感には^{さか}えが下^{さか}。雪崩には気を
つけませう。

フシ冬合宿の反省・感想 988624H 横山 勝臣.

例年通り(?) 予定を消化しないフシ冬合宿となった。最高の天気
に恵まれただけに残念ではあるが、あそこは行けたものではなかつ
た。仕方ないと思う。

今回の一番の反省は、合宿が合宿らしくなかったこと。それは、
春並みの状況だとか、消化不良だとかそういうことではない。合
宿前の段階で僕は少々疑問を感じてしまった。一年生の装備
チェック然り、ビーコン操作や岩トシ等、やっておくべきことにも然り、
そして準備にしても然りである。気分は個人山行というも過言では
なかったかもしれない。一年生はどう感じただろうか? 出発前
から緊張感をもっていただろうか? 緊張感や意欲というた
ものを自ら求める必要はあるのだぞ。しかし、やはり上級生が
いかにそういう緊張感をもたせるか、にかかってくる部分が大
きいと思う。まあ、その原因には、人数が少なかつたことや、四
日間の日程を組んだために準備が平日の午後となり、集中して
できなかつたこと、地方の者が参加できなかつたこと(準備に)、
出発前に行けなかつた者が続出したことなど様々考えられ
るが、それは少し想像力を働かせればわかつたことであり
また、何とかカバーできたことではないだろうか? たった四日間
だからそれでも済むと考えるか? 考えられないこともないが、
やはり合宿は緊張感をもってやりたい。自分も合宿にもっとと
ち重点をおいた活動をしてほしいのではないかと思う。
全体が集まって山に行くのは合宿だけであり、一年生に技術
の基礎や山岳会の良さも伝えられる場なのだし、上級生にと
ても技術向上やマネジメント能力の向上の場である。会の目標
はやっぱり合宿。一年間を通して様々な合宿、個人山行をして、
それを冬合宿に還元できたらと思う。

とまあ、話が少しそれたが、とにかく、冬合宿はそういった不満は許
されないのだから、各自の意識はまちまちかもしれないが(本当は
そうじゃないか)、せめてやるべきことはやろう。一年生はいろいろ
言われたが、トレーニングや準備をしっかりと、後向きに考えることはやめ
て、前向きに冬合宿を捉らえてみたらどうかと思う。

ビーコン訓練はよかつた。日程にゆとりをもってあつたこと
をするのは良いことだと思う。あと、今まで何ども下IX隊に
出たが、またまた今回も新鮮で楽しかつた。また今度双子尾根を
登ろう!

70L冬反省感想 4年 日高弘次

ルートについて... やっぱり、行ける所に行くべきだと思う。
 30kmを考えると、70L冬で双子尾根とはいえ、やっぱり
 バリエーションルートは、向いてなかったのかもしれないだろう。
 他の一般のルートをもう行ってしまったからと言って
 簡単に避けるのではなく、それぞれ立場も前に行った時とは
 変わってるんだし、一年にとりては初めてなんだし、
 同じルートに行く事も、もっと考慮に入れれば
 良かったのかもしれないだろう。

大説教大会について... 「合宿中に、しかもおたから」という
 批判も聞かされたが、あの説教大会は起るべくして
 起ったものであるし、俺はあつよかったと思ってる。
 説教をくらった本人は、結局辞めてしまったけれど、
 せうと、辞めないように、気を使いながら説教
 というのは、全くはかばかしてる事で、合宿のあの雰囲気
 せうつまで説教したのは、起るべくして起った
 もので、自然なものだったと思う。

天気について... 雪もなく、ホカホカ、無風快晴の春のよう
 な陽気の中、「今年は暖冬か〜」と思いつ、一ヶ月後
 には冬合宿へ。「雪ねえぞ〜」とやっぱり暖冬
 か〜」と思いきや、あの寒波。
 地球はでかい、人間は小さいな〜。



SAMCC X=ツバネの2人だけ

現在、会内にはサークルとして
 「SAMCC」(サムニシと読む)
 というのがあり、「Shinshu-u Alpine
 Mixed Chorus Club」の略らしい。
 山行のたびに人目もはばからずコー
 ラスする彼ら。好きだなえ。

雪不足のために敗退に終わったのは残念だった。暖冬予報に対して少々希望的観測を抱きすぎたか。それとも縁がなかったと言うべきだろうか。稜線が憎いほどに恋しく感じられた合宿だった。

今年は自分の一存で4年が3人いるにもかかわらずサブリーダーに3年生を置いた。また各合宿のサブリーダーは3年生にし、今回のプレ冬はリーダー、サブリーダー共に3年生に任せ、4人が必ず一度は合宿に「リーダー」の立場で参加するようにした。理由は早くから全体を考える機会を与えその経験をつませたかったからだ。

2年生に上がりリーダー部員となると自分のことだけではなく全体を見ることとその余裕を持つことが要求される。しかし実際そうは頭で理解してはいても与えられた係りの仕事で手一杯であったり、ルート工作に回ったりで、実行できないことが多い。それにたとえどんなに全体のことを考えてもそれはつまるところ「全体を考えた上で自分は何をすべきか」という兵隊の域を出ないものだ。大将たるリーダーは「全体を考えた上でそいつに何をさせるべきか」を考えなくてはならない。発想的にこの二つはまったく異質なものである。

3年生にはその違いを実際にリーダーという立場に立つことで体験してもらいたかった。果たして3年生の意見を聞かないことには効果の程は不明だが、どうだっただろうか？少しでもいい、得たものがあれば後に生かしてほしい。

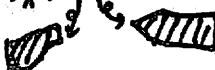
今回はリーダー職を離れてこれまでとはさらに違った目で合宿を見ていたのだが自分には踏み込めない新しい壁を今の1,2,3年に感じる事ができた。安心したようなちょっと寂しいような複雑な心境だった。

ポカポカ陽気のプレ冬であったが冬合宿はさすがに今回のように甘くはない。また人数が少ないと学年、役割分担などお互いの距離が良くも悪くも近くなる。なあなあ関係は気の緩みを生む。気を引き締め冬合宿はメリハリを大切にしよう。

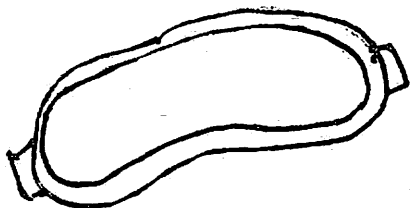
「最後の注文は、合宿に限らず、それぞれが主体的に参加してほしいということ。合宿はリーダーだけのものでも4年だけのものでもない。参加する会員がそれぞれ主体的に行動して楽しむものだし、追及するものだと思う。文句や意見や疑問があったら即座に言うことだ。4年は完璧ではない。それぞれは確かに駒のように感じるかもしれないが、一人一人が参謀たりうるのだ…」

…『昨年度冬合宿報告書、野田さんの総括より抜粋』

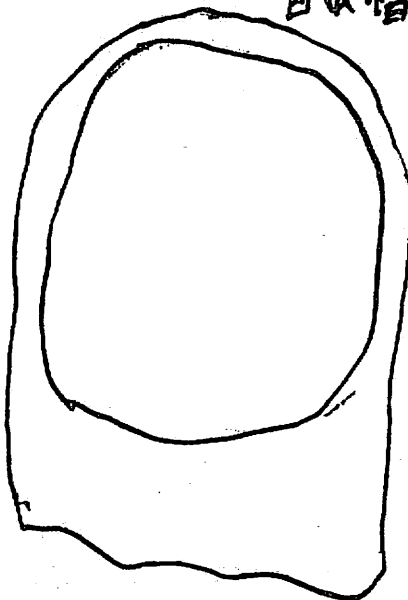
新春特別付録「山岳ふく笑い」

凍傷おどろ


ゴーグル



目かぶり

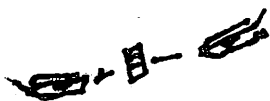


アソビ
 層間の山

モチゲタ



モチゲタ



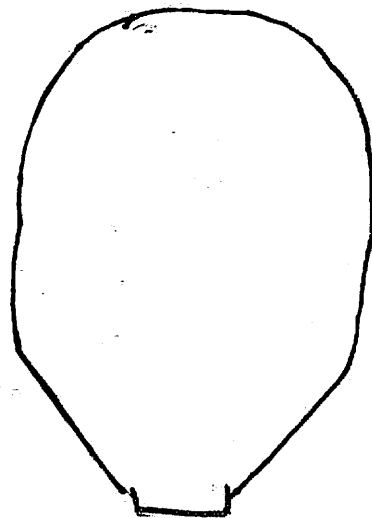
ほな



ヘルメット



モチゲタの本



さあやてみよう!!

編集後記

昔、大木は「編集後記」を「へんしゅうごき」と本気で読んでいた。野川は「虎視眈々」を「しこたんたん」。誰かさんは「叱咤激励」を「叱咤激怒」と。間違いは誰にでもあります。かくいう私目も以前喫茶店に入った折、コーヒーと共に出てきたお口直し用の小さな小さなシナモンクッキーをそれとは知らずにコーヒーに投入し店員さんに教えてもらった赤っ恥な経験があります。皆さん明日はわが身です。人の過ちを笑ってはいけません。

新年の自戒を込めて 編集者

5.5

印刷：松本_ち

編集：岸本
松寄
日高_ち